

# 山口県病院協会 会報

2021 **新年号** No.70

- 発行日 令和3年1月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会  
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



## 年頭のご挨拶

会長 三浦 修

あけましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大情報に神経を尖らせ、各医療機関や施設内で感染予防のための体制整備、人員の配置などに苦慮された1年だったと思います。昨年11月中旬の時点で、米国やドイツの製薬会社数社のワクチンの有効性の高さと安全性が示され、FDA（米食品医薬品局）での緊急使用許可を申請するとの報道もあり、今後日本国内でも6月頃までにはウイルスに対してのワクチン接種の実用化が始まると言われていました。しかし、欧米諸国や発展途上国も含めて、現在のパンデミックの状態が鎮静化するには、もう少し月日が必要となるかも知れません。

2020年度の山口県病院協会としての事業計画は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、予定していた研修会や他の団体との懇談会、各種委員会などもほとんど中止となりました。そういった中で8月21日に、山口県健康福祉部幹部職員の方々と山口県病院協会役員との懇話会を開催できたことは、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした質疑も多く挙がり、有意義な会であったと思います。また、9月18日に山口県病院協会会内組織として、山口赤十字病院の大林由美子看護部長を部会長とし、山口県看護部長部会の設立総会ならびに研修会を山口県総合保健会館で開催できました。県内各病院における看護管理者間のさらなる連携を強め、職員の資質向上と病院内での安心・安全な医療提供体制の構築により一層貢献できるものと思っています。

医師の働き方改革については、2024年4月までに各医療機関はそれぞれの状況を分析し、計画的に医師の労働時間短縮に向けて取り組まなくてはなりません。時間外労働の上限として、(C)水準（年1860時間）の対象となる業務を除き（A）水準（年960時間）の適用を目指す必要があります。さらに暫定的な特例である（B）水準（年1860時間）も、2035年度末までには（A）水準に収斂させるというものです。医師の自己犠牲的な長時間労働に支えられている現在の医療体制の中で、継続的に良質な医療を提供するためにも医師の健康を確保することは喫緊の課題であり、医療機関や医療従事者のみならず行政や一般県民を含めた抜本的な取り組みが必要となります。

昨年の新型コロナ感染禍の中で、各地域における医療構想調整会議も半ば中断している状況がほとんどと思われます。病院ごとの歴史の中で培ってきた文化の違い、あるいは経営母体の差、各自治体ならびにそこで生活されている住民の思いなど、病院の統合・再編には乗り越えなければならないハードルが幾つもあります。病床削減ありきではなく、地域における医療需要の大きな変化の中で、自施設の機能と役割をしっかりと捉え、確固たるビジョンを掲げつつ、自らの立ち位置、進むべき方向性を明確に示すことが何よりも求められます。地域において望ましい医療を提供するためにも、会員病院ならびに各方面の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## CONTENTS（目次）

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
部会コーナー	4 ページ
病院スタッフコーナー	5～7 ページ
諸会議報告	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

## 年頭所感

### 新しい時代に向かって



山口県健康福祉部

部長 弘田 隆彦

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年が良い年となりますことを心からお祈り申し上げます。

また、平素から、本県の医療行政の推進に格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策においては、季節性インフルエンザの流行期も見据え、病床の効果的な運用を図るため、「重点医療機関」、「入院協力医療機関」等による、重症者に重点を置いた入院医療体制を構築する上で、病院協会をはじめとした医療関係者の皆様方に多大なご尽力をいただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。

県としましては、引き続き、県民の命と健康を守ることを最優先に考え、検査体制の一層の拡充や、十分な受入病床・宿泊療養施設の確保、医療提供体制の維持・強化、医療従事者等への支援など、感染拡大防止対策の強化と感染拡大に備えた体制・環境整備に取り組んでまいります。

さて、本格的な少子高齢化社会を迎える中、一人ひとりのいのちが大切にされ、不安なく暮らせることは県民生活の基本であり、生涯を通じて健康で安心して暮らすことができるためには、限られた医療資源の中で、効果的で質の高い医療提供体制を構築することが重要です。

このため、県では、山口県保健医療計画に基づき、県民の皆様方のニーズに即した良質かつ適切な保健・医療の提供に向けて、県民の安心・安全を支える保健医療提供体制の構築と、地域の保健医療を担う人材の確保と資質の向上の二つの視点に沿って、総合的に施策を推進しています。

こうした中、本年度は、計画の中間見直しの年に当たることから、現在、5疾病・5事業に関する指標の見直しや、県高齢者プランとの整合を図ることを目的として、中間見直しを進めているところであり、今後は、今回の見直しを踏まえ、計画最終年度の令和5年度に向けて、着実に保健医療提供体制の整備等を進めてまいりたいと考えております。

また、令和6年4月からの、医師に対する労働時間の上限規制の適用開始に向け、今年度から、国において、地域医療介護総合確保基金を活用した、医師の労働時間短縮に向けた総合的な取組への補助制度が創設されたところであり、本県においても、今後、この制度を活用し、対象医療機関への支援の強化を図ってまいりたいと考えています。

もとより、本県の新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、保健医療施策を積極的に着実に進めていくためには、病院協会の皆様方のお力添えが不可欠であり、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終りに、山口県病院協会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



## 協会役員コーナー

### コロナ禍でいきる



医療法人神徳会  
三田尻病院

理事長 神徳 眞也

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスに翻弄された1年となりました。世界中の人々の生活習慣は大きく変わり、全ての業界の在り方をも根本的に、全く違ったものへと変えてしまいました。

流行の第1波は、全世界的に徹底的な封じ込めで対応しましたが、経済的に大きな犠牲が強いられ、おのずと限界があります。やむなく世界は、ウイルスと共存する道「With COVID-19」を選択しました。コロナフリーを目指すのではなく、地域で発生してもそれを広げない、オーバーシュートさせないことを基本的方針とする社会を選択したのです。

このことが示すものは何か？このウイルスは若い人にも重症化することはありますが、特に高齢者や基礎疾患を有する人に高い病原性を有しています。従って医療機関や老人施設には、感染リスクを減らす努力が今後も継続して求められるということなのです。どんなに院内感染対策に努力していても、無症状の感染者さんが、外来や救急で受診された時、あるいはお見舞いにこられた時に、施設内にウイルスが持ち込まれてしまい、院内感染として広まってしまうリスクと今後も向き合っていくてはならないということなのです。どんなリスクがあっても、我々は医療人としての覚悟とプライドをもってCOVID-19とも向かい合っていきます。しかし、診れば診るほど、救急を受ければ受けるほど増していくこのリスクの事を、もっと正しく国民の皆さまに理解していただきたいと願っています。

今医療が大きく変わろうとしています。しかし、どのように医療制度が変わっても、医療の基本が、患者さんとの信頼関係であることは変わらないと思っています。そして、その信頼は、常に目の前の患者さんに集中し、生命を尊重し、愛情をもって、全力で尽くすことでしか得ることはできないと思っています。信頼を得ることは容易ではありません。しかも、その信頼を失うのは、一瞬です。しかし、その信頼こそが、医療人にとって、正にかけがえのないものであることを忘れてはいけないと思っています。

本年もよろしくお願い致します。

### 年頭所感



山口県厚生農業協同組合連合会  
周東総合病院

病院長 馬場 良和

新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。第2波、第3波では山口県でもクラスター感染が発生し、医療圏内での入院受け入れの話し合いで事前に準備を進めていたことが、感染者の急増により、1週間で無力化することも経験しました。ひとたび、クラスター感染が起これば、1週間に数十人単位の患者が発生します。地域の感染者用のベッドは2-3日で満床になり、山口県でも広域での患者搬送が必要になったようです。感染力の強い病気の怖さを実感しました。

病院は受診される方だけではなく、職員、業務委託の方など、多数の方が立ち寄る場です。感染防御にはどの病院も熱心に取り組まれていることと思います。当院でも業務委託先の従業員の方がPCR陽性となり、当院に1時間程度立ち寄っていることが判明しました。濃厚接触者に関しては自宅待機していただき、PCR検査を行ったところ、幸いにして全員陰性でした。このことから医療知識に関してもかなりの幅がある関係者の方に、感染症について十分な知識を持って行動していただくことが重要であると再認識しました。今後も啓発活動を続けて行きたいと考えています。

今年中に有効なワクチンが登場し、コロナ以前の世界に戻ることを願ってやみません。

## 部会コーナー

### コロナ禍の新年



社会医療法人同仁会  
周南記念病院  
事務局長  
山口県病院協会事務部長部  
会長 橋本 雅徳

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍の新年、会員の皆様はどの様にお過ごしでしょうか？ 自粛自粛の昨年でしたが、今年もまだまだ続きそうな気配です。

新型コロナの「指定感染症」の継続が政府で検討され、1年延長が決定されそうです。「新年一般参賀」も中止となり、地域の「新年互例会」も中止が予定されています。12月に入り、首都圏・大阪市・札幌市等、急激な患者増に伴い重症患者が増加し、医療崩壊が目の前に来ています。幸い山口県では院内感染は1病院のみでおさまっておりますが、年末年始の帰省の状況により、新型コロナの蔓延の恐れは十分ありますので、各病院・施設にて、感染対策・職員教育（うつらない・うつさない・もちこまない・もちこまさせない）等、再度の対策の確認が必要になろうかと思えます。

令和3年はどのような年になるのか……？ 東京オリンピックは開催の方向で動いているようですので、この空気を一変し、世界中が歓喜に満ち溢れる大会になるよう願うばかりです。

一方病院改革（病床規制）は？ コロナ禍の中、調整会議等一時中断されていますが、将来避けて通れない課題です。自院の将来像をどう描くのか、地域における役割をどの様に設定したら永続的に経営できるのか、医療病床等の形態の変更・合併・ダウンサイジング等あらゆる選択肢を考慮し決断していかなければなりません。かなりしんどい仕事になりそうです。

令和3年度中には、新型コロナウイルスが2類感染症から一般インフルエンザと同じ5類感染症になり平穏な日常が送れるよう期待をし、また皆様と美味しいお酒が飲めるよう願っております。

令和2年師走、周南記念病院事務局長室にて、筆。

### 年頭のあいさつ



総合病院山口赤十字病院  
看護部長  
山口県病院協会看護部長部  
会長 大林 由美子

あけましておめでとうございます。

昨年9月に三浦会長をはじめ、関係者のご尽力により、本会看護部長部会が発足し、初代部会長をお引き受けすることになりました大林です。どうぞ、よろしく願いいたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、楽しみにしていた東京オリンピック・パラリンピックは延期、世界規模での経済、人々の健康への影響は非常に大きく、異例づくしの1年を過ごしました。

今年の干支である『丑年』は「我慢・耐える」や「発展の前振れ・芽が出る」ことを表すとの言われがあるようです。丑は十二支の2番目で、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。丑年には、「先を急がず目前のことを着実に進めることが将来の成功につながっていく」ともいわれているそうです。新型コロナウイルスの蔓延で、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、ワクチンの開発、治療薬の確立など、新たな発展に繋がる年になることを期待しています。

新たな感染症の出現により、人々の健康に対する意識は高まったものと思いますが、安心して生活ができるようになるまでには、もう少し時間がかかりそうです。医療従事者の頑張りが燃え尽きる前に、ワクチンが確立し、医療の需要と供給のバランスがとれるようになることを願ってやまない2021年の新春です。

最後になりましたが、本年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 病院スタッフコーナー

### 認知症患者に寄り添う看護



医療法人南和会  
千鳥ヶ丘病院  
看護師

師長 浦浪 美鈴

新年あけましておめでとうございます。

昨年私は日本精神科看護協会の精神科認定看護師の資格を病院やスタッフの協力のもと取得させていただきました。わたしたち看護師はプロ意識を持ちケア技術を習得しなければなりません。そして、意図的に自分自身の気分・感情・言動をコントロールすることも必要となります。

資格取得後、認知症患者に対応する場面で、認知症だから仕方ないと捉えケアしていることが多いことに気づきました。そこで、スタッフと一緒に認知症患者の周辺症状に対する看護ケアを学びスキルアップしていかなければと感じました。なぜなら、認知症患者に出現する周辺症状は、看護師の対応次第で軽減や悪化することがあるとされているからです。

現在、認知症患者に対し様々な看護ケアが提唱されています。そのなかで、カンフォータブル・ケアという周辺症状に対するケア基本技術に興味をもちました。それは、認知症患者が心地良いと感じる10項目の快刺激を提供し、周辺症状を改善するケアのことです。快刺激となるケアは、「常に笑顔で対応する」などすぐに行えるものなので取り入れやすいと思ったからです。また、認知症患者のこれまでの人生を知った上で看護を提供することで、患者に寄り添った看護が提供出来るのではないかと考えています。

新年を迎え気持ちも新たに、患者に寄り添いながら安心して入院生活を過ごしていただけるように、日々取り組んでいきたいです。

### 安全な食事を提供するために



医療法人貴和会  
防府病院  
管理栄養士

栄養課課長 小野 正義

新年あけましておめでとうございます。

当院は防府市にある精神科160床（精神療養病棟54床、精神一般病棟46床、認知症治療病棟60床）の病院です。「以和為貴」（貴和の精神で医療と福祉を行い、広く社会に貢献する）という基本理念に基づき、患者さんに対して、私達スタッフはいま何をすべきか？をみんなで考えながら仕事をしています。

栄養課は管理栄養士4名、栄養士1名、調理師（調理員）9名、計14名です。給食運営は直営給食で、患者さんから頂いた意見を食事にすぐ反映できるようにしています。また、ちらし寿司、カレーライスなど患者さんから好評な献立は定期的に入れるようにしています。入院患者さんは長期入院の方が多く、年々、「歯がない」「飲み込みが悪い」

など摂食嚥下機能に問題がある方が増えてきております。食事による誤嚥窒息などの事故につながらないようにするために、栄養士も患者さんの状態を随時把握し、看護師と話し合いをして主治医に食事形態を提案しております。また、他の患者さんが残した食事や他人の食事を取って食べる「盗食」や、オムツやトイレトペーパーなどを口にする「異食」も報告があります。栄養課も様々なトラブルを少しでも減らすため食事で提供した食器はもちろん、はし・スプーン数の確認を行い、飲み残しのパックゴミまで必ず回収することにしていきます。今後も患者さんの食事場면을観察して、患者さんが食事前後で困っていることはないか把握し、安全な食事を提供していきたいと思っています。

## 病院スタッフコーナー

### 今年も「なんでもない科」でがんばろう



医療生活協同組合健文会  
宇部協立病院  
内科・リハビリテーション科  
(なんでもない科)  
副院長 白藤 雄五

あけましておめでとうございます。

この原稿を書いている昨年11月時点では、新型コロナはまだ収束に至っていません。今年こそはコロナ禍の早期の収束（終息）を得て、以前のような日常を取り戻せるよう、お互い頑張っていきたいと思います。

さて、「なんでもない科」、そういう科は当院にはありません。はてさていったい？

話は20年以上前にさかのぼります。当時私は若手の内科医。当院は地域に根差した医療生協の病院として、真っ先に気軽にかかれる病院、とりあえず何とかする病院なのだ、という気概で、専門科にとらわれずに受け持ってきました。で、ある時、高齢の要介護の患者様が家族に連れられてやって来られました。主疾病を考慮して、私はある先生に受け持ちを頼みました。そしたら（すでに退職された口の悪い先生でしたが）「俺は診ん。お前ら『なんでもないか』で診たらいいだろ？『何でも診る』内科だろ？」という返事。その一言で、自分の医師としてのアイデンティティは？と振り返ることとなってしま

いました。

私はサブスペシャルとしてはリハビリ科（学会認定臨床医）ですが、〇〇内科でござい、というようなものはありません。ないのが自分だ、と居直ってきたようなところもありましたが、それが逆に、根無し草のようなだけじゃないのか？と、突かれたような気持ちになったのです。

しばらくは悶々とした日々は続きましたが、今世紀に入ってから風向きが変わりました。総合診療科の台頭です。患者様本人を診るだけでなく、ご家族や周囲の環境も含め、トータルに関わっていこうという科です。自分の指向はまさにこれだ、と私は飛び付きました。

そして現在、当院には科を超えて、同好の士が4人、プライマリーケア連合学会認定医指導医として頑張っています。総合診療のいわばエキスパート、「なんでもない科」です。この「なんでもない科」魂で、今年も頑張っていきたいと思います。

### 児童思春期病棟を開設して



医療法人山陽会  
長門一ノ宮病院  
看護師  
師長 上利 浩史

新年明けましておめでとうございます。

当院は山口県西部の下関市に位置し、昭和36年8月1日開院。病棟は20床からスタート、時代の流れと共に病床数も増減を繰り返し、現在は精神一般病棟97床、精神科療養病棟50床、児童思春期病棟30床、単科の精神科病院です。来年開院60周年を迎えます。

2年前の平成30年11月には県内の精神科病院では初めて、児童思春期病棟を立ち上げ、現在に至っております。私事ですが当院にお世話になり25年を超えました。日々児童思春期病棟の師長として走り回っています。

今回は当院の児童思春期病棟の簡単な紹介と3年目に突入しての今後の目標をお伝えできればと思います。まず当病棟は現在、下は小学校低学年生から上は19歳までの児が入院しています。成人病棟とは違った週間スケジュール・日間スケジュールが組まれています。毎日学習時間が組まれていますし、治療プログラム（認知機能トレーニング・

作業療法・レクリエーション療法）等月曜日から土曜日までプログラムが組んであります。当病棟は自閉スペクトラム症の児の入院が多く、行動療法・ポイント制の導入で毎日夕方、部屋持ちの看護師が行動の振り返りを行なっています。また数名の小中高生は病院からの通学も行なっています。そのために、通学前は交通機関乗車等の訓練や交通機関定期券購入援助、通学前後より各学校との連絡調整援助等を行なっています。患児が現在の状態から少しでも社会に順応できるよう、また日常生活が落ち着いて過ごせるようになることを目指して医師と看護師、公認心理師と精神保健福祉士、作業療法士と栄養士が一丸となって頑張っております。（次ページへ続く）

（前ページより）

現在ようやく忙しい中でも病棟運営でどこが足りていて、どこが足りていないのか？振り返りができ、考える時間もとれるようになってきました。病棟スタッフが日々患児との関わりや家族との関わりの中で勉強し、より良い病棟を作っていく上で一人一人が努力をしていかなければならないと思います。入院している患児と共に自分自身や病棟に関わるスタッフもみんな成長して行ければと思います。

当院の看護理念は「安心・満足・信頼できる看護の提供を目指します」です。この理念の様に患児もその家族も安心・信頼して頂ける病院・病棟作りが必要だと考えます。

今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 諸会議報告

### 令和2年度 第2回理事会

日時 令和2年11月27日（金）15：00～16：30

開催場所 山口県総合保健会館 第1研修室

#### 【承認事項】

1. 令和2年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. 第17回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
3. 令和2年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会の後援依頼について

#### 【協議事項】

1. 会議・研修会等の実行状況と今後の会議・研修会について
2. 冬季医療経営講習会について

#### 【報告事項】

1. 新年互礼会について
2. 第26回四県病院協会連絡協議会の中止（延期）について
3. 令和2年度山口県救急医療功労者知事表彰について
4. 令和2年度山口県選奨について
5. 県行政委員等の推薦について
  - ・山口県医療審議会委員  
会長 三浦 修（再任）
  - ・山口県死因究明等推進協議会委員  
副会長 馬場 良和（再任）
  - ・山口県高齢者保健福祉推進会議委員  
常任理事 高橋 幹治（再任）
  - ・山口県がん対策協議会委員  
常任理事 林 弘人（新任）
  - ・公益財団法人やまぐち移植医療推進財団評議員  
常任理事 松谷 朗（再任）
  - ・山口県がん対策協議会がん登録部会委員  
理事 村上 不二夫（再任）
  - ・宇部・小野田地域保健医療対策協議会委員  
監事 尾中 宇蘭（再任）

#### 6. 県各種委員会等の結果報告について

三浦会長

- ・令和2年度第1回山口県医療審議会

（11月17日）

神徳副会長

- ・令和2年度第1回山口県医療対策協議会専門医制度部会

（7月30日）

高橋常任理事

- ・令和2年度山口県高齢者保健福祉推進会議

（11月20日）

天津事務局長

- ・令和2年度山口県男女共同参画推進連携会議

（10月13日）

- ・令和2年度やまぐち子育て連盟総会

（10月15日）

#### 【その他】

### 令和2年度 第3回情報管理委員会

日時 令和2年12月11日（金）15：30～17：00

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

#### 【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

### 令和2年度 第3回正・副会長会議

日時 令和2年12月24日（木）15：00～16：00

開催場所 防府胃腸病院会議室

#### 【協議事項】

1. 事務局人事について
2. 令和3年度の事業について
3. その他

## お知らせコーナー

### 令和2年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される、山口県救急医療功労者知事表彰は次の病院に決定し、10月13日、山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

社会医療法人いち樹会 尾中病院（理事長 尾中 宇蘭）



### 令和2年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月20日、山口県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において、山口県病院協会理事の 西田 一也 先生が受賞されました。西田先生は、平成16年から吉南医師会で理事・副会長・会長を歴任されており、校医や山口県公衆衛生協会の評議員などの公職を通じて地域医療の振興に貢献されてきました。また、平成19年以来、13年におよび当協会の理事も務めておられます。

その功績は顕著であることにより、県選奨受賞となりました。心よりお祝い申し上げます。



### 病院協会の主な行事予定

- |         |            |                |
|---------|------------|----------------|
| ○ 1月15日 | 第1回総務委員会   | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 3月16日 | 第4回情報管理委員会 | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 3月19日 | 第3回理事会     | (会場：山口グランドホテル) |

#### 編集後記

昨年2020年は、コロナ、コロナで振り回された慌ただしい1年となりました。特に病院経営では、受診控えなどの影響で医業収益が10%を超える大幅減少となり、大変厳しい状況が続いています◆国の議論やマスコミ報道は、ややもするとCOVID-19患者受け入れ病院や受け入れ準備病院の苦境ばかりを取り上げがちですが、それ以外の従来の医療を支えている病院もその苦しみは同じです。地域医療を協力して支えあっている病院群が機能不全を起せば、その地域の医療は崩壊してしまいます◆COVID-19感染患者以外の患者を受け入れている病院への支援も忘れずにおこなっていただきたいものです。

(神徳真也)